

女子大学生の自尊心が自己制御ならびに 対人ストレッサーに及ぼす影響

玉木健弘 (武庫川女子大学)

キーワード：自尊心、自己制御、対人ストレッサー

問 題

これまでの研究で、自尊心、自己制御、ならびに対人ストレッサーに関する研究は、数多く行われている。そして、これらの研究結果が、多くの知見が得られている。しかし、女子大学生に焦点をあてた研究は数少ない。

そこで、本研究は、自尊心、自己制御、ならびに対人ストレッサーが女子大学生におよぼす影響について検討を行った。

方 法

1. 調査対象者

女子大学生および女子短期大学生1年生から4年生の875名を対象に調査を行った。回答に不備があった質問紙を削除した結果、841名を分析対象者とした。なお、対象者の平均年齢は19.59歳 (SD: 1.14) であった。

2. 調査用紙

(1) 自尊心：自尊心を測定するため、2項目自尊感情尺度 (箕浦・成田, 2013) を使用した。回答は、「全くあてはまらない」(1点) から、「非常にあてはまる」(5点) の5件法とした。

(2) 自己制御：自己制御を測定するため、社会的自己制御尺度 (原田・吉澤・吉田, 2008) を使用した。この尺度は、「自己主張」「持続的対処・根気」「感情・欲求抑制」の3下位尺度 (計29項目) で構成されている。回答は、「まったくあてはまらない」(1点) から、「よくあてはまる」(5点) の5件法であった。

(3) 対人ストレッサー：対人ストレッサーを測定するため、対人ストレッサー尺度 (高橋, 2013) を使用した。この尺度は、「被拒否」「被攻撃」「加害」「関係理解不能」の4下位因子 (計25項目) で構成されている。回答は、「まったくあてはまらない」(1点) から、「かなりあてはまる」(5点) の5件法であった。

3. 実施方法

調査用紙を封筒に入れて、調査対象者に配布をした。実施は集団で行った。

結果および考察

(1) 自尊心の高低群における各変数との違いの検討：まず、自尊心の高低群による各変数との違

いを検討するため、自尊心感情得点の0.5SDを基準に高群 (353名)、中群 (203名)、低群 (285名) に分類した。次に自尊心の3群における各変数 (自己制御3変数、対人ストレッサー4変数) の違いを検討するため、分散分析を行った。その結果、全ての変数で群の主効果が認められたため、多重比較 (Bonferroni) を行った。その結果、全ての変数で高群と低群で違いが見られた。なお、Table 1に各変数の平均値ならびに標準偏差を示している。

(2) 自尊心の高さが及ぼす自己制御ならびに対人ストレッサーへの影響：自尊心の高さの違いにおける自己制御ならびに対人ストレッサーへの影響を検討するため、パス解析を行った。分析モデルとして、自己制御の3変数から対人ストレッサーの4変数に影響を及ぼすと仮定した。分析の結果、「自己主張」から対人ストレッサーの全てのパスが有意ではなかったため、「自己主張」を削除し、再度分析を行った。

まず、分析モデルの適合度を調べた結果、両モデルともGFIは.95以上であった。しかしRMSEAは.35以上の値を示した。

次に自己制御から対人ストレッサーへの影響を検討した結果、自尊心高群では、「持続的対処・根気」から対人ストレッサーのすべての変数で、有意な負のパスが示された。また、「感情・欲求抑制」から対人ストレッサーの全ての変数で正の有意なパスが示された。自尊心低群では、「持続的対処・根気」から「被攻撃」へのパスが有意ではなかったが、その他のパスは有意であった。分析の結果、自尊心高群と同様、「持続的対処・根気」から対人ストレッサーには有意な負のパスが示され、「感情・欲求抑制」から対人ストレッサーには有意な正のパスが示された。なお、Figure 1に分析モデルを示している。

Table 1 各変数の平均値ならびに標準偏差

群	自己制御			対人ストレッサー			
	自己主張	持続的対処・根気	感情・欲求抑制	被拒否	被攻撃	加害	関係理解不能
高群	M 40.89 SD 4.93	M 19.24 SD 2.48	M 30.70 SD 4.05	M 15.00 SD 5.71	M 18.39 SD 6.02	M 16.82 SD 5.74	M 15.71 SD 4.81
中群	M 39.48 SD 4.61	M 18.60 SD 2.25	M 29.70 SD 3.79	M 16.07 SD 5.07	M 19.04 SD 5.37	M 17.81 SD 4.85	M 16.10 SD 4.41
低群	M 37.74 SD 4.26	M 18.31 SD 2.31	M 28.94 SD 3.82	M 17.36 SD 5.62	M 19.66 SD 5.87	M 18.00 SD 5.51	M 17.25 SD 4.34
合計	M 39.49 SD 4.83	M 18.77 SD 2.40	M 29.86 SD 3.98	M 16.06 SD 5.62	M 18.98 SD 5.84	M 17.46 SD 5.48	M 16.33 SD 4.60

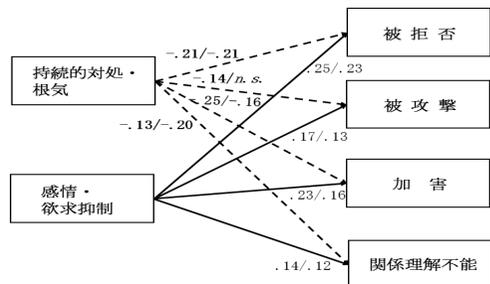


Figure 1 分析モデルおよびパス係数

注 1：左の数値が高群、右の数値が低群を示している。

注 2：誤差変数は削除した。

注 3：実線は正の影響を示し、点線は負の影響を示している。